

青梅を歩く

青梅のいまむかし

多摩川の流れが長い歳月をかけて造った「段丘」と呼ばれる階段状の地形の上に町がある青梅は、多摩川とのつながりの深さが、その地形自体に現れています。江戸から青梅を通り、甲府盆地へ向かう道路が青梅街道ですが、当初は成木と江戸を結ぶ道で「成木街道」と呼ばれていました。江戸

時代に入り、青梅が江戸の後背地としての役割を増すようになると、成木街道は「青梅街道」と呼ばれるようになります。青梅と奥多摩や甲府盆地との往来が盛んになりました。青梅と奥多摩や甲府盆地との往来が盛んになるにつれて、甲州への近道として利用する旅人が多くなり「裏甲州街道」とも呼ばれ、青梅宿としてにぎわいました。

【散策マップ】

青梅散策コース

9:40 青梅駅前出発	11:00 金剛寺
9:45 住吉神社	男井戸女井戸
青梅駅&駅周辺	万年橋
旧稲葉家住宅	12:00 釜の淵公園 (ランチタイム)
10:30 中武馬車鉄道森下駅	13:30 調布橋の碑
熊野神社(森下陣屋跡)	14:30 青梅市役所

コラム1 「青梅の由来」

金剛寺境内にある梅の実は、秋になっても緑色のまま、黄色く熟さないのが「青梅(あおうめ)」と称せられ、それが地名の由来であるといわれています。また平将門が立ち寄った際、「わが願い成るなら榮えよ、成らぬなら枯れよ」と願いの成就を占ったところ、芽吹いたことから「将門誓いの梅」とも呼ばれています。ほかにも、緑のままの実をつけているのは、願いが志半ばで潰えてしまった将門の怨念であるなど、数々の言い伝えが残されています。

スタート!



青梅駅周辺

青梅駅周辺は市を上げて「昭和の街」をテーマに街づくりを進めています。旧青梅街道沿いには「青梅赤塚不二会館」があり、それにちなんで青梅駅の発車メロディには、アニメ「ひみつのアッコちゃん」のテーマソングが使用されています。

住吉神社

1369(応安2)年に延命寺を開山した季竜和尚が、創建と同時に、故郷である摂津国の住吉神社を祀ったのが始まりと伝えられています。それ以前は「地主稲荷」と呼ばれる小さな神社があったといわれ、本殿西側にある社がそれだとされています。



金剛寺

真言宗豊山派金剛寺は、青梅山無量寿院と号し、本尊は白不動像。承平年間(931~938年)の創建と考えられ、開山は寛政上人とされています。16世紀中頃に三田氏を滅ぼした後、北条氏によって塩船寺と同様に寺領を保証され大きな勢力を持ちました。



熊野神社(森下陣屋跡)

東西にまっすぐ伸びる青梅街道の西端に位置しています。1590(天正18)年に徳川家康が関東に入国して間もなく、多摩地方を支配するために八王子に代官所が設置され、その出張所として当地に陣屋が設けられました。敷地内の鎮守である熊野神社境内には市内最大のカシの木があります。



ちゅうぶ 中武馬車鉄道森下駅跡

入間から青梅までを結ぶ路線として1896(明治29)年に内務省に出願され、1901(明治34)年9月9日に開業しました。全長18.45kmのレールの上を12人乗りの小さな客車を引いた馬が走っていました。時速8~10kmで1日10往復程度運行しており、料金は森下→入間川間で20銭(現在の千円程度)でした。

旧稲葉家住宅

もうちょっと知りたい! 3

稲葉家は江戸時代に青梅宿の町年寄を務めた家柄で、屋号を「稲葉店」といい、材木問屋や青梅織の仲買問屋として活躍した青梅でも有数の豪商でした。裏の庭には、樹齢100年の臥竜電梅があります。



お男井戸女井戸

大柳公園のそばにある男井戸女井戸は、段丘崖*を奥へ5m掘り込んで造った平坦な地にあります。仲良く並んだ井戸は、かつて近隣の人々の大切な水源でした。

*段丘のなかでも平坦なところを段丘面、急斜面のところを段丘崖といいます



今回歩いたコース



万年橋

もうちょっと知りたい! 5・6

江戸時代、万年橋という名の橋は多摩川上流部に3つありました。というのも、当時は洪水になると、橋が流されてしまうことが多く、このため「永久に流されないように」という願いを込めてつけられた名前だったのです。



若鮎の碑

多摩川の放流鮎の歴史は1913(大正2)年に東京帝国大学教授、石川千代松博士が、琵琶湖産の鮎100尾を大柳河原に放したことに始まります。日本初の放流養殖実験に成功したことを記念して、1973(昭和48)年に像が建てられました。



万年橋の碑

1946(昭和21)年建立。題字は日本画の巨匠川合玉堂、撰文は文豪吉川英治、碑文の書は歌人で国文学者、書家でもある尾上柴舟と、そうそうたる顔ぶれによる碑となっています。万年橋の架橋にたずさわった畑中橋徳会の苦勞と、橋の変遷、由来が記されています。



釜の淵公園

もうちょっと知りたい! 7・8
人々に多摩川に親しんでもらい、憩いの場として利用してもらうために、1967(昭和42)年に開園。名前の由来は、かつて水量が多かった頃、深さや形が釜のような淵だったためといわれています。園内には市民館、プール、郷土資料館などの施設があり、年間を通じて訪れる人も多く、親しまれています。この公園は多摩川の素晴らしい景観地として、多摩川50景に選ばれました。



調布橋の碑

もうちょっと知りたい! 9
かつて織物が盛だったこの地域では、少し下流の千ヶ瀬の渡しが利用されていました。しかし多摩川の水かさが増すと船がとまってしまうため、つり橋がかけられました。調布橋という名前は、この辺りが1889(明治22)年に調布村と編成されたことからつけられました。



参加者のコメント



子供の頃は多摩川で泳いだりしていましたが、しばらくぶりで訪れてみて、こんなにきれいな川なのかと見直しました。

川崎に住んでいるので、同じ多摩川でもこんなにきれいなところがあるのかと。日々気をつけてはいるけれどもやはり川を汚してしまっているのだな...と感じさせられました。

3回目の参加です。青梅には初めて来ましたが、昭和のレトロな雰囲気が面白かったです。川がきれいなのに驚きました。紅葉もすばらしいですね。

コラム2 「多摩川50景と多摩川八景」

建設省関東地方建設局(現国土交通省関東地方整備局)が、多摩川への関心を高め、河川環境整備の方向性を探ることを目的として主催した「あなたが選ぶ多摩川八景」これに寄せられた候補地に対する一般投票を行い、それをもとに選考委員会が「50景」を選定しました。さらに1984(昭和59)年4月29日には、一般投票と選定委員により「多摩川八景」が選定されました。

- 「多摩川八景」
- ① 多摩川の河口
 - ② 多摩川台公園
 - ③ 二子玉川 兵庫島
 - ④ 玉川上水
 - ⑤ 多摩大橋付近の河原
 - ⑥ 秋川溪谷
 - ⑦ 御岳溪谷
 - ⑧ 奥多摩湖

